パート２　＜小学校編＞

実践例・カリキュラムプラン例（府内Ａ小学校）

“食”をテーマに地域社会とかかわる活動を通して、
自己の生き方を見つめる児童を育てる
～人・もの・こととのふれあいの中で～

１　学校経営の基本理念 …… 41

２　カリキュラム開発の視点から …… 42
(1) カリキュラム開発の経緯
(2) 教育目標との関連からの「総合的な学習の時間」の構想
(3) 子どもの「学び」の位置付け
(4) 学級経営の質的充実
(5) しなやかな教育課程編成の観点
(6)「総合的な学習の時間」の推進体制

３　「総合的な学習の時間」の展開例 …… 53
－第５学年「ビデオレターを作ろう」の取組から－
(1) 育てたい資質や能力
(2) 「食」と「ビデオレター作り」を関連付けた単元設定
(3) 単元の見通しと児童の学び
(4) 問題解決的な学習の工夫
(5) 地域社会との連携
(6) 学習環境の工夫・改善

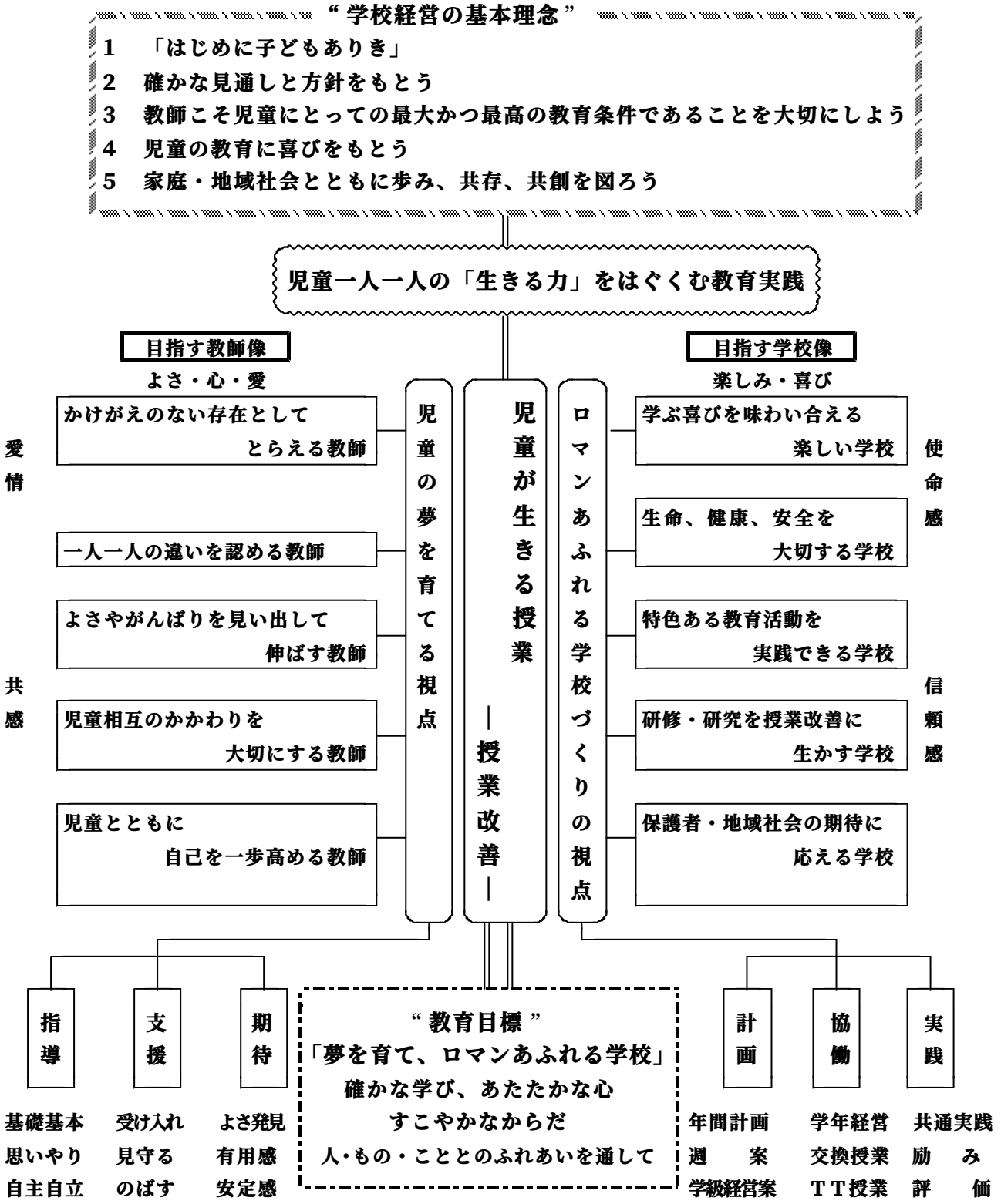
４　「総合的な学習の時間」のカリキュラム評価の工夫・改善 …… 64
(1) ポートフォリオ評価の具体化
(2) カリキュラム評価の観点

５　カリキュラム改善への視点 …… 68
(1) 成果
(2) 平成１３年度に向けての改善点

1　学校経営の基本理念

学校経営の基本理念として「はじめに子どもありき」「家庭、地域社会との共生」を視野に入れた「目指す学校像」「目指す教師像」を示し、基本理念を共通理解することは、教職員にとっての「総合的な学習の時間」の課題発見、課題追究になり、全教職員の協働意識や実践力を高め、特色ある学校づくりに生かしていくことになる。

以下、研究協力員として協力いただいている学校での実践を基に「カリキュラム開発」のプラン例を展開していくことにする。



2　カリキュラム開発の視点から

(1)　カリキュラム開発の経緯

ア　取組の経緯

平成８･9年度

実践主題

「個を生かす授業の充実」

個に視点を当て、個を生かす支援活動の充実の中にこそ、授業改善が生まれる

平成10年度

実践主題

「個が生きる学校」

実践副題

個を生かす授業の充実

・学びが楽しくなる授業の展開
・自ら学ぶ意欲高め、学力を身に付ける
・誰もが学習の主体者となる授業の実現

平成11年度

実践主題

「個が生きる授業の充実」

・学びが楽しくなる授業の展開
・自ら学ぶ意欲高め、学力を身に付ける
・誰もが学習の主体者となる授業の実現

平成12年度

実践主題

「確かな学びの育成」

・学びが楽しくなる授業の展開
・自ら学ぶ意欲を高め、学力を身に付ける
・誰もが学習の主体者となる授業の実現

学力プロジェクト

個を生かす授業の充実

★　授業改善のとらえ方

①日々の教育活動を通して個々の児童に生涯にわたる学習の基盤となる力を培う
② 一人一人のよさに着目して、さらにそれらを伸ばす授業
　・興味、関心
　・ものの見方、考え方、感じ方の違い

★　授業改善の視点

①学びが楽しくなる導入の工夫及び児童や地域の実態に合った教材･教具の開発
②自分なりの考えや思いのもてる活動を生み出す工夫
③練り合い、磨き合える活動の工夫と思考力・表現力の伸長
④自ら学びを振り返る活動と家庭や地域社会での自己学習への広がり
⑤児童の育ちにつながる評価の工夫

★　具体化へのアプローチ

①一人一人の学習の課題に合った支援活動の工夫
②児童の実態に合った単元構成の工夫や教材・教具の開発
③学習指導のティーム化

★　三つの活動の重視

①からだ全体で実感する体験活動
②思いや考えをふくらませる表現活動
③練り合い、磨き合う話合い活動

イ　より等身大の生活に密着した単元開発へ

(ｱ) 第１年次の単元開発の視点

「食」をテーマにした単元をどのように開発していくかを考えてみた。平成11年に出された文部省発行の「食に関する指導の実践事例集－総合的な学習の時間に向けて－」の中で取り上げられている実践のほとんどが、直接的に「食」を取り扱ったものである。ちなみに小学校の10の実践例を分類してみると、①食生活の改善にかかわるもの６校、②食材の栽培や調理にかかわるもの２校、③食材の栄養素やルーツ調べ１校、その他１校であった。どちらかといえば、これまで生活科や家庭科、学級活動の指導の中で取り上げてきたものをアレンジして、「総合的な学習の時間」に位置付けて取り組むという傾向が見られた。

そこで、第１年次（平成11年度）は、次の表に示すような直接的に「食」を扱ったものを中心にした単元開発を目指した。

学　年	単　元　名	学習する時間
障害児学級	「豆の変身」	生活単元学習
１年	「学校給食」	生活科
２年	「米と食」	生活科
３年	「米と食」	博士ﾀｲﾑ：裁量の時間
４年	「水と食」	博士ﾀｲﾑ：裁量の時間
５年	「世界と食」	博士ﾀｲﾑ：裁量の時間
６年	「食の歴史と未来」	博士ﾀｲﾑ：裁量の時間

こうした初年度の取組を踏まえて、学校給食についての研究の委嘱と平成14年度以降の教育課程（とりわけ「総合的な学習の時間」）との両方を見据えながら、第２年次の単元開発に取り組んだ。

(ｲ) 第２年次の単元開発の視点

学校としての特色や地域の特徴を踏まえた単元設定の取組は、その問題発見や追究の過程の中で、児童が地域を歩き、人とかかわることによって、人々の温かさにふれ、自分の郷土や自分のルーツを見つめることになる。すなわち、「自分探しの旅」になると考える。なぜなら、その課題設定は、児童の問題意識を切実なものにし、豊かな学びを生み出すことにつながるからである。

したがって、「食」そのものを直接扱うという方法ではなく、「食」を起点にしながら、「地域の人やもの・ことにふれる」（学校教育目標）中で、地域の人の優しさに出会ったり、思いもしなかった自分の町のよさに気付いたりして、自分にとっての等身大の問題・切実な問題に出会うことを目指して単元を設定していった。

この様な間接的な「食」の取り上げ方は、学ばせたい知識や態度の形成面から考えるとやや不十分であるが、児童の学びを支援していく上では、非常に適切であるといえる。

こうして、水、豆、米、和菓子やランチルーム、ＣＡＴＶといった豊かな自然や社会資源を「食」というテーマと関連付けた学習にしていくという視点で、平成14年度からの「総合的な学習の時間」に残す共有財産として単元設定から単元開発へ、教育課程編成からカリキュラム開発へと視点を移していったのである。

開発した単元は、次のとおりである。

学年	単　　元　　名	学習する時間
障級	「そば作りをしようパートⅠ・Ⅱ」	総合的な学習 生活単元学習
1年	「スイートポテトでクッキング」 「わくわくたんけんたい・校区の山にチャレンジ」	生活科
2年	「とびだせ２年たんけんたい（米作り、収穫祭）」 〃　　（まちたんけん）	生活科
3年	「校区の山ワンダーランド」　「わがし大作戦」 「100年前にタイムスリップ」	総合的な学習
4年	「ビオトープを作ろう」　「おいしい水を探そう」 「水の研究所」	総合的な学習
5年	「野外炊飯に挑戦」 「食のビデオレターを作ろう」	総合的な学習
6年	「地域の人をランチルームに招こう」　「感謝の気持ちを表そう」 「園児をランチルームに招いて」	総合的な学習

(2) 教育目標との関連からの「総合的な学習の時間」の構想

学校の教育理念から教育目標が設定され、それを具現化するための研究主題が設定され、そして教育課程の中に「児童の学び」が位置付けられることが大切である。

研究主題
“食”をテーマに地域社会とかかわる活動を通して、
自己の生き方を見つめる児童を育てる
―人・もの・こととのふれあいの中で―

ア　研究主題をカリキュラム化する視点

衣食住にかかわることは、必然的に、人・もの・こととのふれあいが登場する。

人・もの・こととのふれあいは地域の中にある。

人・もの・こととのふれあいは、思考力や判断力、実践力を育て、問題解決的な活動になる。

問題解決の活動は、「知の総合化」を促し、自己の生き方を見つめ「自分知」へとつながっていくものである。

イ　「総合的な学習の時間」を位置付けたカリキュラムの全体構想と育てたい力

教育目標
夢を育て、ロマンあふれる学校
確かな学び、あたたかな心、すこやかなからだ

研究主題
“食”をテーマに地域社会とかかわる活動を通して、自己の生き方を見つめる児童を育てる　　～人・もの・こととのふれあいを通して～

総合的な学習の時間
生活科生活単元学習
平成11年度【直接的な“食”】
平成12年度【間接的な“食”】

障害児学級	１学年	２学年	３学年	４学年	５学年	６学年
そば作りをしよう	わくわくたんけんたい（校区の山にチャレンジ）	とび出だせ２年たんけん隊（お米作りに挑戦しよう）	校区の山ワンダーランド	ビオトープを作ろう	野外調理に挑戦しよう	ふるさとの歴史と自然ウォッチング
			わがし大作戦	水の研究所	食のビデオレターを作ろう	幼稚園の先生になろう

育てたい資質や能力

◎学び方の習得
- 違った観点からの見方
- 異なる立場からの考え方
- 比べ方・関係付けの仕方
- 自分なりの意見作り
- 教科の知識や技能と関連づける能力や態度

◎かかわり方の習得
- 情報の集め方やまとめ方
- 報告・発表・討論の仕方
- 学び合いの仕方

◎生き方の習得
- 知識や技能を課題解決へ生かす能力や態度
- それぞれの人のよさやちがいを認める態度

ウ　「総合的な学習の時間」の年間計画

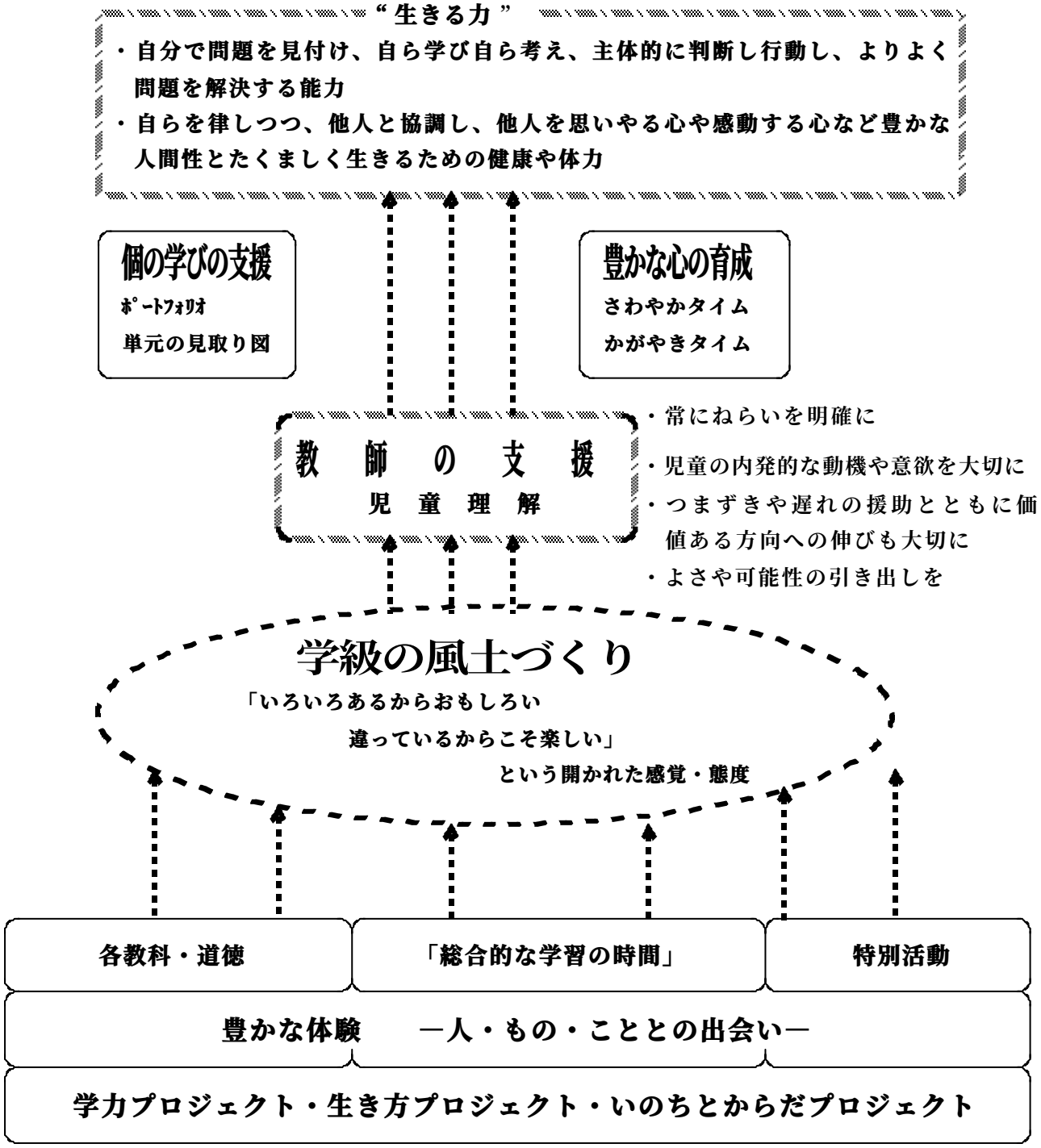
次ページに、前期と後期に分けて「総合的な学習の時間」の年間計画を示す。

「総合的な学習の時間」の年間計画　　時数配分は前期15H・後期20Hが目安（計35H）

	前期単元	後期単元
障害児学級	「そば作りをしよう」　（「総合的な学習の時間」を踏まえた生活単元学習） （小麦をまこう） ①そば粉餅ってなに　②畑を作ろう　③そばの種をまこう　④大きくなったね ⑤そばを収穫しよう　⑥そば粉を使ったクッキング　⑦そばがらを使って遊ぼう	
1年	「わくわくたんけんたい校区の山にチャレンジ」　（生活科） ①林の中で遊ぼう　②自然のものを使って作ろう　③校区の山の生き物を探そう ④秘密基地を作ろう　⑤スイートポテトでクッキング	
2年	「とびだせ２年たんけんたい『お米作りに挑戦しよう』」　（生活科） ①バケツ稲の栽培　②田植えに挑戦　※町たんけん（「食」のお店を訪ねて） ③稲刈り・稲こきに挑戦　④お祭りワッショイ（野菜とお米でみこしを作ろう）	
3年	「校区の山ワンダーランド」　（総合的な学習の時間） －森の遊園地を作ろう－ ①校区の山の自然を探検しよう ②自然の遊具を作って遊ぼう	「わがし大作戦」（総合的な学習の時間） －町の老舗をたずねて－ ①和菓子の秘密に迫ろう ②和菓子作りに挑戦 ③子どもお茶会を開こう
4年	「ビオトープを作ろう」　（総合的な学習の時間） ①ビオトープって何 ②ビオトープを作ろう ③ユンボが来たよ ④観察日記を作ろう	「水の研究所」　（総合的な学習の時間） －水のひみつをさぐろう－ ①水の研究所を作ろう ②テーマを決めて調べよう ③水の秘密見付けた
5年	「自然の家合宿」　（「総合的な学習の時間」と特活のクロスカリキュラム） 「野外調理に挑戦しよう」 ①食材を考え火を起こそう ②アウトドア・クッキングに挑戦 －焼きそば（昼）、カレー（夜）、ハムエッグ（朝）－	「食のビデオレターを作ろう」 （総合的な学習の時間） ①「食のビデオレター」って何 ②おすすめスポットを見付けよう ③取材に出かけよう ④放送局を開こう（ＣＡＴＶを訪ねよう）
6年	故郷の自然や歴史を見つめよう（「総合的な学習の時間」と社会科のクロスカリキュラム） 「町の歴史と自然ウオッチング」 ①歴史が見える－文化遺産や自然を訪ねて－ ②歴史と自然のポスターセッションをしよう	－園児をランチルームに招いて－ （総合的な学習の時間） ①自分史の旅に出よう ②幼稚園の先生の活動を進めよう ③私の将来を考えよう
エコクラブ	「校区の川に親しもう」　（学校裁量10H） ①カヌーに挑戦しよう ②校区の川クリーン大作戦 ③川の生き物を調べよう ④ケナフを育てよう	「ふるさとの自然で遊ぼう」（学裁10H） ①竹やぶ探検隊（竹を切って釣りざおを作ろう） ②川の魚を釣ろう ③校区の山でバードウォッチング ④ケナフ紙を作ろう

(3) 子どもの「学び」の位置付け

「学ぶ力」は、問題解決的な学習や集団的な思考過程（話し合い、練り合い）を通して、それぞれの児童に個性的な考え方が育つ中で身に付けられる。友達の違った考え方や感じ方に出会うことで、自分のそれまでの考えが揺さぶられ、これまで経験した事実やもののとらえ方を見つめ直し、練り直しを始める。この「問題場面」との出会いこそが、学習の意欲につながり追究の起点となる。さらに、話し合い活動、練り合い学習につなげることによって、子どもたちの学びが深まるのである。もちろん、これらの活動が学級で成立するためには、ふだんから学級の児童の中に温かい人間関係や好ましいかかわりが育っていなければならない。共感的で探究的な学級の風土づくりが大切である。このようにして子どもの「学び」がはぐくまれるのである。



(4) 学級経営の質的充実

全学年において学級経営案を作成し、その中に研究主題とかかわらせて児童の実態や「人・もの・こと」にかかわる視点で、「学力」「いのち・からだ」「生き方」「総合的な学習の時間」に分けて計画し、教育目標の具現化を学級の中でどのように図るかを意識化することが大切である。

さらに、学級経営評価（自己診断）を学期ごとに実施し、児童の変容を担任としてとらえ直すことによって、よりよい学級経営の質的充実を図っていくことにつなげなければならない。

５学年のものを例示する。

平成12年度（５）年（　）組 学級経営案　担任名

Ⅰ 学級の子ども理解（子どもの実態）

・熱を出し早退した。そのことを知った、いつも活を送っている．君の元気が　い。今にも泣き出しそうな顔をしている。ど　と、「せっかく合宿やのに、　君これへんかったらいやや。かわいそう。」を　児童も神妙な顔つきになってしまった。「今から帰ってしっかり寝はるから、　っても納得せず、「先生、みんなが心配してるって言っといて。」と言って　た。翌日、彼の願いが通じたのか、途中からではあったが、　君も参加し、　えることができ、　君もとても満足していた。
友達を思いやり、共感する心を持った児童が多く、実際そういう場面に多く　どものよさをいろいろな場面で生かせるように見守っていきたい。

Ⅱ 育ち児童像（学級経営方針）

①友達と助け合える子ども
・友達の意見を尊重しながら、自分の意見をしっかり表現しようとする態
・さわやかタイムで弱のお話を聞いたり、かがやきタイムで友達のがんば　生活する中で、お互いのよさを理解しようとする態度を育てる。
・友達を大切にし、協力しながら楽しい生活を送ろうとする態度を育てる。
②よく聞き、よく考え、最後まで粘り強く活動する子ども
・自分なりの思いや考えを大切にし、それらを意欲的に自己表現しようと
・友達や先生の話をよく聞き、自分なりの思いや考えと照らし合わせなが　てる。
・自分なりのこだわりを大切にし、納得がいくまで取り組んだり、粘り強　育てる。

Ⅲ 支援のための手だて（実践計画）

	人	もの	こと
学力	算数でのティームティーチング 学年ティームティーチング 学校内外のゲストティーチャー	図書館の本、図鑑、辞典、コンピューター、カポチャ、メダカ 実物投影機、発表ボード	読書、調理実習、飼育、栽培、インターネット、飯盒炊飯
健康	栄養士の先生 養護の先生	ランチルーム	ランチタイム、そのべっ子タイム、性教育、食事・栄養指導、カウンセリング
生き方	家の人 地域の人 養護学校の友達	作文ノート	懇談会、クラブ活動、委員会活動、さわやかタイム、かがやきタイム、養護学校との交流学習
総合的な学習の時間	野外炊飯に挑戦しよう		
	家の人 食堂のおじさん 栄養士の先生、調理師さん	鍋、かまど、網、鉄板、飯盒、肉、野菜、果物、米、調味料、包丁、まな板、ざる、ボール	テント設営 火起こし 野外炊飯
	食のコーディネーターを探そう		
	商店の店主さん 飲食店のご主人 栄養士の先生、調理師さん 地域のボランティアの皆さん	カメラ テープレコーダー CATV	番組作り 地域の人との触れ合い 職場体験（トライやるデイ）

(5) しなやかな教育課程編成の観点

年度末の指導の総括を踏まえ、一人一人の個性をはぐくみ、自ら学ぶ意欲と生きる力を育てるために日々の学校生活がゆとりとうるおいのあるものになるよう教育課程編成の観点を整理することが必要になる。

ア より緻密で、計画的な教育実践

P（計画）　年間から月、週、日々に至るまでの指導計画における計画性の重視

↓

D（実践）　教育実践の組織的かつ総合的な展開

↓

S（追究）　個のよさを多面的、内面的にとらえ、伸ばす評価の追究

ＰＤＳサイクルの繰り返しを重視し、絶えず高い目標と確かな展望をもって、カリキュラム改善を図ることに努める。

イ　自主性や主体性を高めるゆとりある学校生活の実現

週時程表の工夫‥‥ゆとりとうるおいのある生活を目指して、週時程をスリム化し、工夫・改善を図る。

裁量時間の活用‥‥自主性や主体性をはぐくむことを目指して、集会活動や博士タイム、さらに「総合的な学習の時間」に取り入れる。

生活時程の工夫‥‥ノーチャイムやフリータイムの設定により、自己選択力や自己管理能力を伸ばし、指導の充実を図る。

◎　柔軟な週時程の工夫例 研究協力員の学校）

	月	火	水	木	金	土	
８：３５	さわやかタイム 健康観察タイム						
８：４５ ８：５０ ノーチャイム	第１・２校時						
１０：２５	フリータイム						10:20
１０：５０ ノーチャイム	第３・４校時					3･4校時 終わりの会	12:10
１２：２５	給　食 昼　休　み 清　掃						
１３：０５ １３：４０ １３：４５							
ノーチャイム	第 5 校 時						
１５：２０	６校時	かがやきタイム			６校時		
１５：３０	かがやき タイム	15:15	職員会議 研 修 等	学年会 等	かがやき タイム		

ウ　より充実した教育環境の整備

指導力の向上　‥‥児童にとって最大の教育環境である教師自身の実践力の向上を図るため、研究・研修に努める。

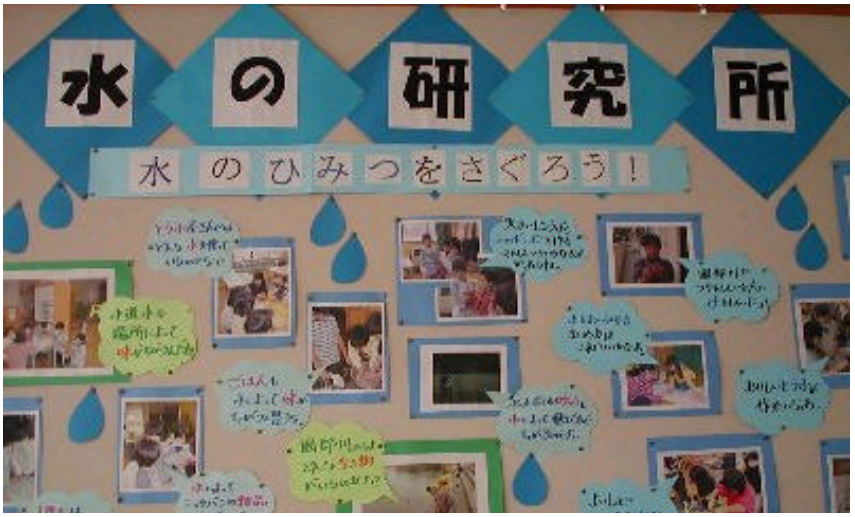
環境の改善整備‥‥児童が自ら学ぼうとする意欲を喚起する教室経営や環境の改善整備を進める。

多様な教育資源の活用

‥‥地域社会の教育環境を生かし、ふるさと学習の充実や社会人講師の招へいを積極的に図る。

形に見えない学習環境の重視

‥‥「心の環境」ともいうべきものを潜在的カリキュラムととらえて重視する。（この中には学校風土、教育文化、伝統、学校の醸し出す雰囲気などが含まれる。）



「総合的な学習の時間」の学びのコーナー掲示板

エ　人・もの・こととのふれあいを通しての「総合的な学習の時間」

単元設定ができれば、次に「総合的な学習の時間」の学校全体としての年間計画表を作成する必要がある。下表で、**高学年で「食」、中学年で「環境」を取り上げた展開例を示す。**

学年	単元名	活動の流れ	人	もの	こと	関連教科領域
障害児学級	そば作りをしよう	①そば粉餅のことを知ろう ③畑を作ろう ③そば栽培に挑戦 ④クッキング	栄養士先生 地域の人 家の人 農家の人	栽培・収穫 そばうちに必要なもの そばがら	栽培･収穫 そばうち 収穫祭 招待状	生活単元学習

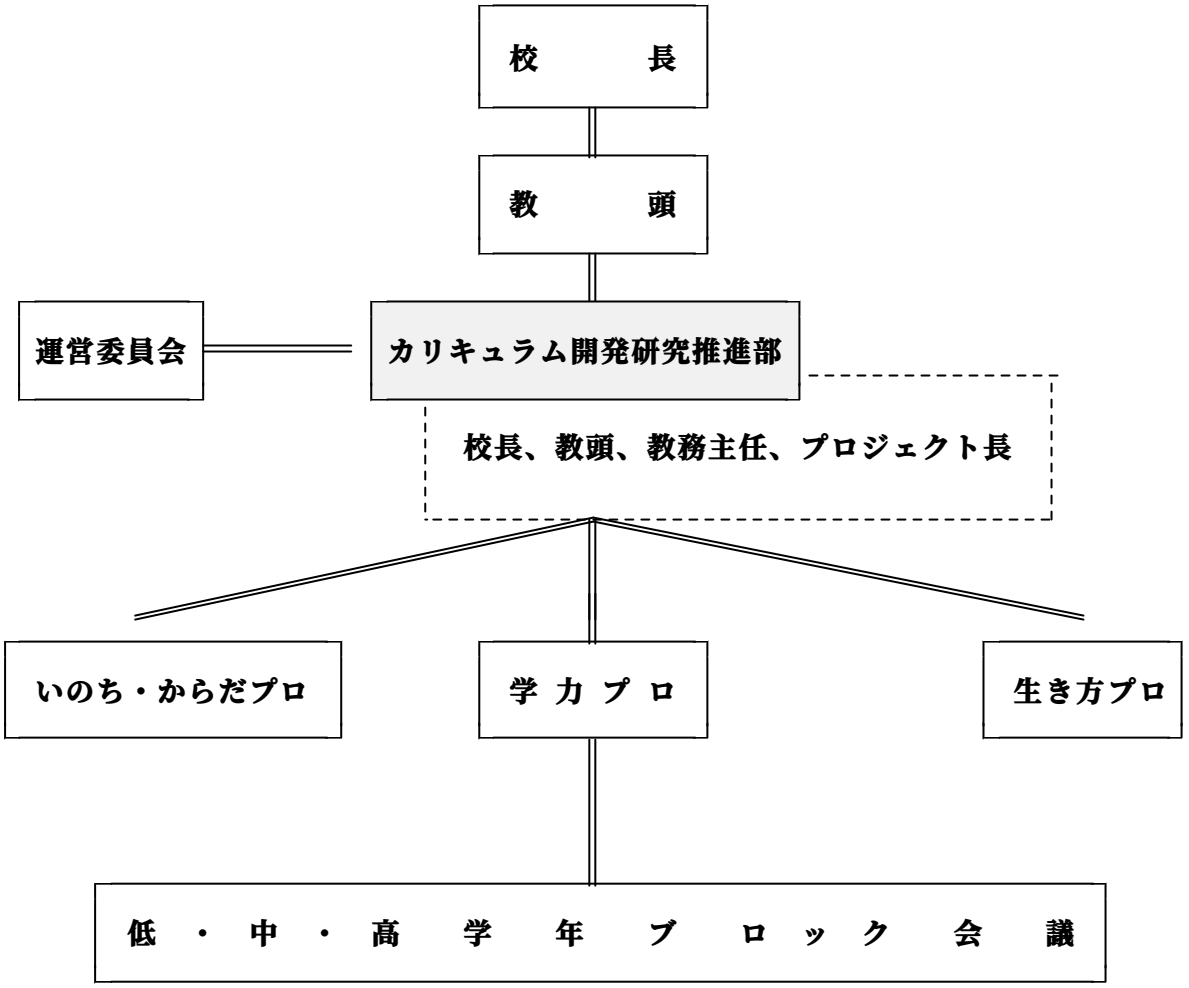
3	校区の山ワンダーランド わがし大作戦	①森の遊園地を作ろう ②自然探検をしょう ③町の老舗をたずねて ④和菓子作りに挑戦	祖父母 社会人講師 お菓子屋さん 栄養士	林・樹木 ロープ 双眼鏡 文化博物館 食材	遊具作り 遊ぶ会作り 自然観察 おやつ作り体験 調理体験	環境教育 進路学習 社会科
4	ビオトープを作ろう 水の研究所を作ろう	①生き物ゾーン作ろう（ビオトープ） ②ユンボの観察日記を作ろう ③水のひみつを探ろう	科学ｾﾝﾀｰ 水を生かした店 下流地域の人	水生生物 池（ビオトープ） 水質測定器 各地域の水	ビオトープ作り 水の味比べ 水質調査活動	理科 環境教育 図画工作科
5	食のビデオレターを作ろう	①おすすめの食のｽﾎﾟｯﾄを見付けよう ②放送番組作りについて学ぼう ③取材計画書作成 ④取材活動 ⑤番組編集しよう ⑥放送局を開こう	商店の人 飲食店の人 栄養士 調理員 9CHのｶﾒﾗﾏﾝ、ｱﾅｳﾝｻｰ	ｶﾒﾗ ﾃｰﾌﾟﾚｺｰﾀﾞｰ CATV ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ	番組作り 地域の人とのふれあい 職場体験 ﾄﾗｲやるﾃﾞｲ	進路学習 情報教育 社会科
6	幼稚園の先生になろう 園児をランチルームに招いて	①自分の歴史を知ろう ②招待状を作ろう ③幼稚園の先生になろう ④ようこそランチルームへ ⑤思い出に残そう	地域住民 幼稚園の先生 幼稚園児	ﾗﾝﾁﾙｰﾑ 招待状 招待献立 手紙 Eﾒｰﾙ 授業 私の書いた指導案	もてなし 年少者との交流 学習や遊びの計画書 保育体験	進路学習 福祉教育 図画工作科

(6) 「総合的な学習の時間」の推進体制

「総合的な学習の時間」を推進するに当っては、従来の研究推進部ではなく、「総合的な学習の時間」を含む教育課程全般にわたって掌握できる体制を組むことから始めなければならない。そこでは、教育課程よりももっと広い視点からカリキュラムを考えていくことが必要であり、従来の教務を中心とした教育課程編成では対応できないのである。教職員一人一人が、カリキュラムを意識し、編成にかかわり、研究推進に当たることが大切なのである。

「カリキュラム開発研究推進部」が中心となって研究推進を計画し、全教職員に提起し、共通理解を図り、見直し、改善を図ることのできる研究推進組織を考えてみた。次ページに示したものが、学年を母体とした推進組織例である。

ア　[推進組織例]



イ　「総合的な学習の時間」の研修計画

	1学期	2学期	3学期
内 容	5月 模擬授業① 6月 全体研修会① 7月 全体研修会② 夏期休業 講演 模擬授業② （低中高ﾌﾞﾛｯｸ会議）	9･10月 全体研修会 (3･4･5学年) 11月 研究発表会 ①給食公開 ②授業公開 ③全体会･研究協議	1月 全体研修会⑥ 2月 総括 ｶﾘｷｭﾗﾑ検討 評価

3　「総合的な学習の時間」の展開例

－第５学年「食のビデオレターを作ろう」の取組から－

(1) 育てたい資質や能力

類　型	育てたい資質や能力	項　　目
学び方	①　問題発見力	・地域の店に関心をもち自分のこだわりからおすすめの食のスポットを選び、追究する問題をつかむ。
	②　問題追究力	・取材と結び付け、問題解決への見通しをもって追究する。
	③　問題解決力	・追究した問題に対して自分の考えを練る。
	④　継続してやり抜く態度	・様々な方法を用い、粘り強く問題解決に取り組む。
かかわり方	①　表現する力	・その店のおすすめの内容がよく分かるように工夫して伝える。
	②　他者とかかわる力	・店の人や来店している人々と積極的にかかわり、地域の人々と交流する。
生き方	①　生き方を考える力	・活動を振り返り、自分の生活と関連させながら地域の店のよさや役割について考える。
	②　社会へ参加貢献する態度	・この活動を通して、ふるさとを大切にする意識を高める。

(2) 「食」と「ビデオレター作り」を関連付けた単元設定

この単元では、地域の「食」のおすすめスポットを見付け、みんなにビデオレターで紹介しようという活動を中心的な学習に据え展開する。

日頃、子どもたちは、家族と食べ物の店に出かける機会も多く、興味ある食べ物を扱う店を探し出すといったことについては非常に関心が高い。また、自分たちがカメラやマイクをもって取材をするということは初めての経験であり、大変興味深い学習の始まりになることが期待できる。

自分たちがすすめる食のスポットをみんなに分かりやすく伝えるために、「何をどのように伝えればいいのか」「カメラはどの位置でとればよいか」「インタビューでは何を聞くのか」等話し合って計画を立て、地域の情報センターのカメラマンやアナウンサーのプロからの指導を受け、番組を作っていくようにする。このような活動を通して地域社会との出会いを重視し、店で働く人々の様子に触れ、自分自身の生活や地域を見つめ直す機会としたい。

さらに、ビデオカメラの扱いに慣れ、編集して放送するという新しい学び方や発表の仕方も身に付けさせたいと考える。

(3) 単元の見通しと児童の学び（全２４時間）

学習過程

つかむ

(1) ビデオレターに関心をもち、おすすめの食のスポットを見付けよう。（４）

児童の学び

問題発見
- ビデオレターについて知り、活動に向けての意欲をもつ。（１）

↓

学習活動の見通し
- おすすめの食のスポットを決める。（１）

↓
- 取材グループを決める。（１）

↓
- 食のスポットについて追究したい問題をつかむ。（１）

教師の支援
- ビデオレターで人に伝える楽しさや自分で表現するおもしろさを知らせ、意欲を引き出すようにする。
- 児童の生活体験を生かすようにして食のスポットを決めるよう配慮する。
- 児童の思いを大切にし、カメラマンやインタビュー、ディレクターの役割を意識させグループを作る。
- 取材と関連させて追及する問題を見い出すようにする。

もとめる

(2) ビデオカメラを持って、本番の取材に出かけよう。(14)

児童の学び

追究１
- 問題について多様な方法を用い、追究する。（４）

↓

追究２
- ゲストティーチャー（情報センタースタッフ）を招いて、放送番組について学ぶ。（２）
（取材活動の見学、番組作りの指導等）

↓

追究３
- 取材計画書を作成する。（１）

↓
- 予備取材（ロケハン）に出かける。（２）

↓

整理
- 予備取材のときの気付きや思ったことを交流する。（１）

↓

追究４
- 追究した内容と関連付けながら聞いてみたいことや映したい場面を決め、取材計画書を作る。（１）

↓
- 取材準備をする。（１）

↓

追究５
- 取材活動を行う。（２）

教師の支援
- 取材活動に生かせる視点で問題を追究するように助言する。
- ゲストティチャーにはできるだけ具体的な活動を示してもらうようにする。
- 何を一番伝えたいのか考えながら手順等を計画するよう助言する。
- 取材とはどういったことか理解を深め各自の仕事について意識を高めるようにする。
- 児童の思いや考えを十分に出すようにし、具体的な計画書を作るよう支援する。
- それぞれの役割分担に従い計画書に基づき取材を行うようにする。
- 取材をするときのマナーについても留意する。
- 事前連絡や調整をきちんと行い、安全面については特に留意する。

みつめる

(3) ビデオレターでおすすめの「食」のスポットを紹介しよう。（６）

児童の学び

整理
- 番組を編集する。（１）

↓

全体発表
- 放送局を開く。（４）

↓

↓

生かす
- ９チャンネル（ＣＡＴＶ）を視聴する。（１）

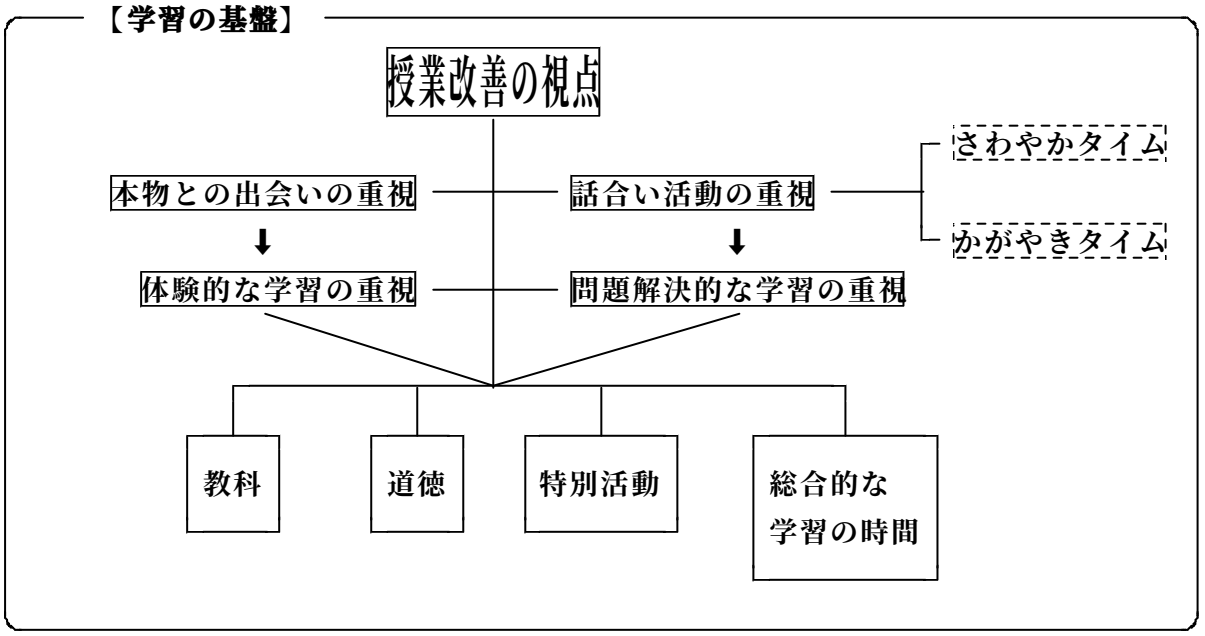
教師の支援
- どの場面を一番みんなに伝えたいか考え、編集に当たるよう助言する。
- 工夫したり苦労した点に視点を置いて発表するようにし、児童同士の交流を大切にする。
- カメラ撮りやインタビューの仕方、編集の仕方等技術面にも焦点を当て相互評価するようにする。
- 家族みんなで９チャンネルを視聴し、自分や友達、地域のよさについて交流するように促す。

(4) 問題解決的な学習の工夫

ア　授業改善の視点の明確化

「総合的な学習の時間」に取り組むに当たり、まず授業改善がその基盤になる。日常的な教科学習において次のような授業改善の視点を明確にし、全教職員の共通理解の下、この視点を各教科や領域等のカリキュラム作成や授業方法等の基盤に据え学習指導の充実を図っていくようにする。

授業改善の５つの視点	学習指導の充実
1　学びが楽しくなるような導入の工夫及び地域社会の実態に合った教材・教具の開発 2　自分なりの考えや思いをもてる活動を生み出す工夫 3　練り合い・磨き合える活動の工夫と思考力・表現力の伸長 4　自ら学びを振り返る活動と家庭や地域社会での自己学習への広がり 5　児童の育ちにつながる評価の工夫	1　一人一人の学習の課題に合った支援活動の工夫 2　児童の実態に合った単元構成の工夫や教材・教具の開発 3　学習指導とティーム化



イ　問題解決的な学習を支える「話合い活動」の重視
－日常的な「さわやかタイム」と「かがやきタイム」の取組を生かす－

「総合的な学習の時間」における問題解決的な学習は、子どもたちが自分自身の考えや思いを出し合い、互いに交流し、練り合いのある授業を展開することで深化していく。このためにふだんから話合い活動を意識的に教育活動に取り入れ、学級の児童の中に温かい人間関係や好ましい友人関係を育てることを重視する。

子どもたちの中には、友達の気持ちや学級の雰囲気を考えずに無責任な発言をしてしまうこ

とがある。また、あまり深く考えることなく友達の意見や教師の話を鵜呑みにしたり、無理に同調したりすることもある。こうした子どもたちの姿勢を変え、学級を共感的で探究的なものに育てていくためには、作文や日記、文集等で表現する指導とともに話合い活動を積極的に取り入れ、子どもたちとの心の交流を大切にする。

授業では、体験的な学習や話合い活動の中での練り合いを通して、「いろいろあるから面白い、違っているからこそ楽しい」という開かれた感覚や態度を育てることを大切にする。そして話合い活動での子どもたちのやり取りを通して、日常的に考えを交流することのよさに気づかせるようにする。

また、問題解決的な学習において話合い活動が成立するためには、子どもたちに「聞く姿勢」を育てることが不可欠であると言える。しかし「人の話はしっかり聞きなさい」といった指導だけでは不十分である。子どもたちの聞く姿勢が崩れる一つの要因として、興味や関心のない話が進められていくことを挙げることができる。できるだけ子どもたちの生活とかかわりのある話題を取り上げていくことが重要になってくると考える。

このため朝の会や終わりの会で「話す・聞く」時間を意識的に設定して、国語科との関連を図りながら「話すこと・聞くこと」の活動を継続して行っている。

【さわやかタイム】（朝の会）
- くらしの中の課題への気付き
- 友達との意見交流による課題への深化
- 聞く態度の育成の場
  →友達のものの見方や考え方に寄り添う機会
  →自分の考えや学習テーマを発信する機会
- カウンセリングマインドの場→心を開く場

【かがやきタイム】（終わりの会）
- 一日の振り返り
- かがやき発見→一日を振り返って、友達のよさを見付ける場
- 自分を見つめ直す場
- 聞く態度の育成の場
  →友達のものの見方考え方に寄り添う機会
  →明日への見通しをもつ場
- カウンセリングマインドの場→心を開く場

教師の支援

○話合いのよさを十分に感じ取らせる。
- 「分かりやすさ」を追究する。
- できるだけ日常生活での経験に照らし合わせる。
- 生活経験と教科との内容のかかわりを重視する。

○楽しい話合い
- 子どもたちが出してきた話題をできるだけ多く取り入れる。

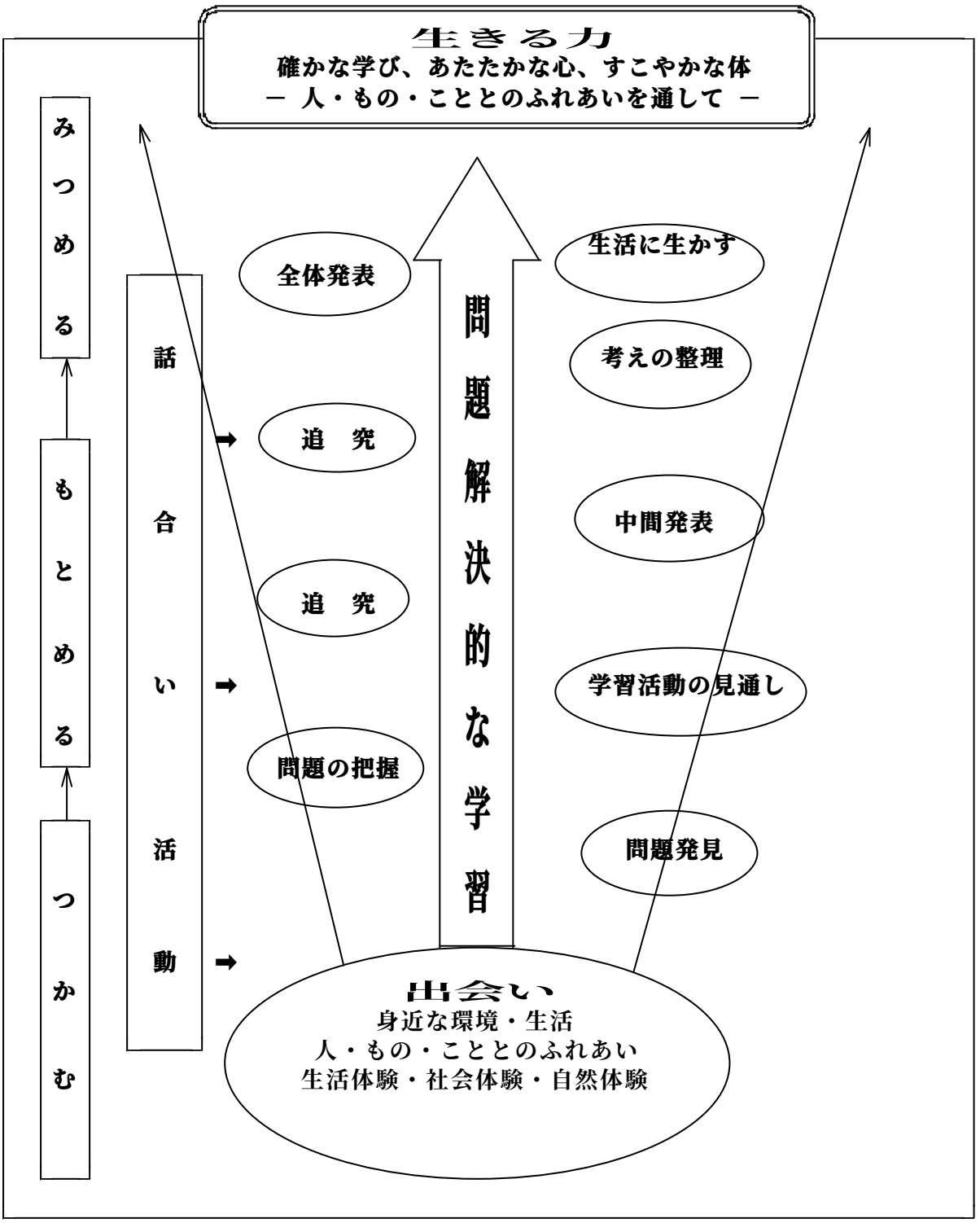
○心を開く話合い
- つぶやきを大切にする。
- 一人一人の話題を大切にする
- 学級の成員としての自覚を高める。
- 友達を尊重する。
- 互いにコミュニケーションできる時間をゆったりとる。

ウ　３段階の基本的な学習過程

この単元の学習基盤になっているのが、次のページの図に示す、様々な出会いの場面を大切にし、話合い活動を積極的に取り入れた問題解決的な学習の展開である。

つかむ → もとめる → みつめる

この３段階の基本的な学習過程を踏まえ、体験的な学習における本物の出会いや話合い活動での子どもたちの思いや考え、気付き等を重視し、よりよいビデオレターができるように追究を重ねることによって、子どもたちが学習の主体者になる「総合的な学習の時間」を目指した。



エ　「活動」が見える工夫

子どもたちは、食のビデオレターを作るために様々な活動を行ったが、その試行錯誤の活動や学びを見えるようにし、活動を整理し、振り返り、問題解決的な学習を深化するために様々な「学びのカード」を活用した。これは問題解決的な学習を展開する中で、子どもたちにとっては大きな支援となり、教師には評価の有効な手がかりとなった。

特に、取材活動においては、事前の子どもたちの話合い活動を十分に生かし、取材計画を丁寧に立て、インタビューの内容や取材順序等を記した取材計画書を作成した。

学びのカード【取材計画書①】

マイ（ぼくの・わたしの）

ＭＹ取材計画①　作成者５年２組　名前（　　）

1　店の名前　ケーキ屋さん

2　聞くこと

・お店は何人いるんですか。
・一週間の中で、お客さんが多いのは何曜日ですか。
・今、一番売れているケーキは何ですか。
・何かお客さんにサービスをしているんですか。
・どこで、ケーキを作っているんですか。
（もしその場で作っているんだったらめいわくにならないように見せてもらう。）

4　いるもの
カメラ、お金、マイク
メモ帳、ペン

5　注意
・ケーキをうつすこと
・あいさつをしっかりすること
・人にめいわくにならないようにすること

学びのカード【取材計画書②】

マイ（ぼくの・わたしの）

ＭＹ取材計画②　作成者５年　組　名前（　　）

少し聞かせてね！　・君の取材先はどこ？（中か料理屋さん）
・前回のロケハンはうまく行った？
（とてもきんちょうした。）
・おじさんと仲良くなれた？（やさしかった。仲よしになった。）

取材の順序

①お店のかん板をうつす。
②店の中に入って店長さんをうつす。
③店長さんにインタビューをする。
・おすすめの品は何ですか。
・お店をやって何年たつのですか。
・なぜ、○○という名前を付けたのですか
・お店の工夫は何ですか。
④メニューをうつす。
⑤自分たちで食べる。
⑥まとめ

学びのカード【MY発表計画】

MY発表計画　　5年2組　名前（　　）

11月20日「食のビデオレターを作ろう」学習第　時間目

○少し聞かせてね

・いつ本取材に行ったの……　11月　18日（土）　時間（1:00　）

・グループの取材先はどこ……うどん屋

・そのお店のこだわり、おすすめのところは……売りかのでるから出前はしない

・役割分担は……カメラマン

・ビデオの特徴や見どころは……うどんを作っている所

ビデオレターを写す

○みんなに感想を行ってもらおう！

○こういう活動をしてどうだったか？

・こんなふうにがんばったよ

うどんを作っている所がよく分かるようにカメラにとった

・お店のこだわり発見・工夫発見など

手打ちうどんのおいしさがなくならないように出前はしない。

・伝えたいエピソード・失敗談

作りたてのうどんがとてもおいしかった。

・やり始めと今の心の変化（自分発見）

もっとたくさんの店を取材したい。

また、教師は子どもたちの問題解決にかかわる情報を一覧表にまとめ、個々の活動について事前に把握し、今後の活動の広がりを見通すなど支援の手がかりにした。さらに、これによって活動内容や方法などの変更があったときはその経過や考えの深まりを知ることもできた。

【食のビデオレターを作ろうメンバー表】

場　所	電　話	メンバー	撮影日時	定休日
ケーキ屋①			8日(水)	なし
食料品店			9日(木)	日曜日
弁当屋			10日(金)10：00	日曜日
中華料理店			17日(金)昼休み	水曜日
手打ちうどん店			18日(土)1：00	火曜日

【食のビデオレター撮影カレンダー】

日	月	火	水	木	金	土
5	6	7	8	9	10	11
			ケーキ屋 喫茶店	食料品店①	弁当屋 (10:00)	取材休み
12	13	14	15	16	17	18
	食料品店② 手打ちうどん①	昼休み ハンバーガー店 中華料理店①	魚屋 ラーメン屋 (2:00)	とうふ屋	中華料理店② (昼休み)	手打ちうどん② (1:00)

(5) 地域社会との連携

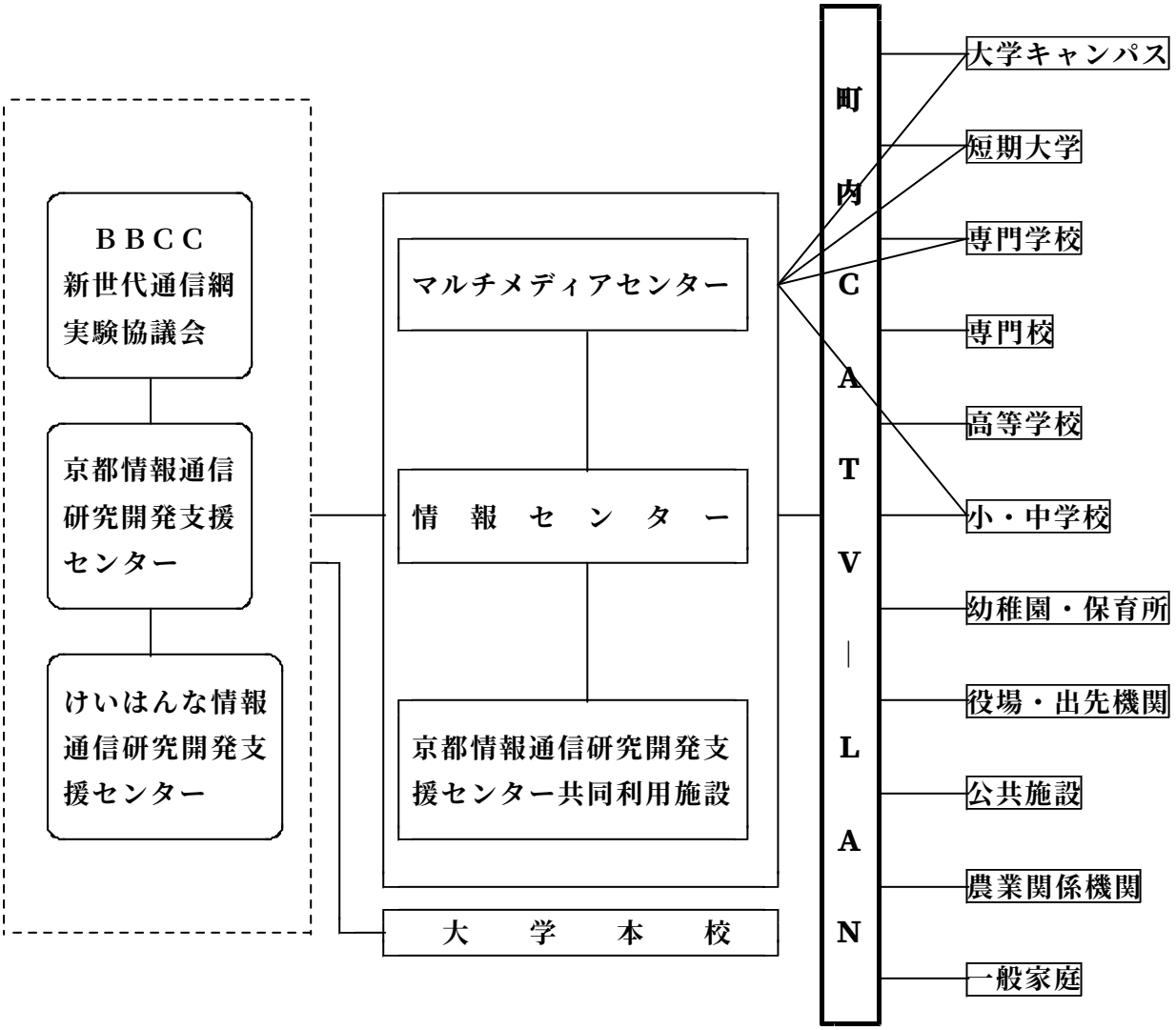
ア　地域の教育資源の開発と連携

「総合的な学習の時間」は、地域社会を基盤に展開することが多いことから、地域社会の教育資源の開発と連携が何よりも重要になってくる。日頃から教師自身が地域を歩き、また、行政機関とも連携を図りながら協力が得られる人々や施設等の開発を図り、リストやマップに整理して、教師や子どもたち誰もが活用することが大切である。（次ページの図参考）

イ　自治体型ケーブルテレビ（ＣＡＴＶ）の活用

この単元では、町の自治体型ケーブルテレビ（ＣＡＴＶ）を活用することによって、子どもたちの興味・関心を非常に高めるものとなった。

【ＣＡＴＶの概要】



５年生になり子どもたちの委員会活動が始まったが、放送委員会やお知らせ委員会の興味・関心は高く、学級アナウンサーコンテストを行い、委員を選出したほどである。こうした情報発信に関する興味や意欲を大切にして、ビデオレター作りを設定した。

開かれた学校

情報の発信
- 公開授業
- 学校通信
- 学級通信
- 参観
- 保護者懇談会
- 地域団体との懇談会
- 説明会
- 自治体系ケーブルテレビの活用
- インターネット

学習環境の拡大
- 体験的な学習の重視
  - 野外活動、自然体験、美化活動
  - 生産活動、勤労体験、遠足
  - 林間学校、交流
  - ボランティア体験
- 問題解決的な学習の重視
  - 調べ学習、ものづくり
  - 見学、調査、発表

多様な人材・施設の活用
- 保護者、専門家、地域の人々
- ＰＴＡ
- 組織、団体
- 施設

他校種との連携
- 幼稚園
- 小学校
- 中学校
- 高等学校
- 盲・聾・養護学校
- 専門学校
- 大学

行　　政	TEL・ｱﾄﾞﾚｽ	社会・福祉	TEL・ｱﾄﾞﾚｽ
役場 教育委員会 消防署 警察署 浄水場 税務署 振興局 病院 郵便局 職業安定所		養護老人ホーム 特別養護老人ホーム 身体障害者療護施設 重度身体障害者授産施設 知的障害者更生施設 知的障害者授産施設 知的障害者グループホーム 精神障害者グループホーム 母子通園療育教室 聴覚言語障害センター 人材センター	

教　　育	TEL・ｱﾄﾞﾚｽ	文化・交流	TEL・ｱﾄﾞﾚｽ
子育て支援教室 幼稚園本園 　　分園 私立幼稚園 小学校 中学校 府立高等学校 私立高等学校 各種専門学校 短期大学 中央図書館 隣保館 教育局		中央公民館 文化博物館 国際交流会館 女性の館 文化センター 児童老人館 住民センター コミュニティーセンター 子ども会	

交通・情報	TEL・ｱﾄﾞﾚｽ	社会体育	TEL・ｱﾄﾞﾚｽ
ＪＲ駅 バスセンター マルチメディア 　　センター		多目的グランド スポーツセンター キャッスルプラザ 町営プール	

日頃、テレビを見たりゲームを楽しんだりして受信する側にいる子どもたちであるが、この単元では、子どもたちは発信する側に立ち、主体的に番組を作っていく。３人グループになり、インタビュー役とカメラマン、ディレクターと役割分担をして、おすすめの店に出かけ、自分自身の手でビデオやカメラ等を実際に操作するのである。

この学習活動に先だって、町の情報センターのスタッフをゲストティーチャーに迎え、インタビューの仕方やカメラの位置・操作の仕方、ディレクターの役割、編集の仕方等の具体的な放送番組作りについて指導を受けた。これによって効果的な取材の方法が分かり、取材への期待がさらに高まったのである。また、子どもたちの学習活動はＣＡＴＶを通して地域に放映され、子どもたちの活躍が地域の中で紹介され、認められたのである。

こうした地域にある情報センターとの連携を図り協力を得ながら進めた活動は、町全体から注目されるダイナミックな取組となり、これが子どもたちの大きな自信につながった。

ウ 「食」を通しての地域との連携

子どもたちは、食に関する生活体験を生かし、自分自身のこだわりをもつ地域の店を取り上げた。「おいしい店はどこか」「どんな店なのか」「何を取材するのか」等こだわりを際だたせるために様々な視点から店を取り上げ、本番の取材を行うようにした。

子どもたちが取り上げた店	子どもたちのこだわり
・ケーキ屋	かわいいお菓子、小物
・手作りパン	母の勤め先、おいしいパン
・うどん屋	おいしいうどん、店長がいい人
・魚屋	おばちゃんがやさしい
・中華料理屋	チャーハンやラーメンがおいしい
・ラーメン屋	ラーメンがおいしい、店の人がいい
・ハンバーガー屋	ハンバーガーがおいしい
・食料品Ａ店	自分の家、安くてよい商品
・食料品Ｂ店	10円ガムがうまい、当たりあり
・お好み屋	おいしいお好み焼き
・弁当屋	うどんや弁当がおいしい、出前あり
・とうふ屋	お母さんのおすすめの店
・喫茶・軽食屋	パイナップルジュースがおいしい

食といった子どもたちの身近なテーマから地域の中に溶け込み、様々な人や物、自然とのかかわりをもつことができ、しかも、取材を進める中でそこに客として来ている人々にもインタビューを行い、人々とふれあう機会と場を広げたのである。

【取材先への礼状から】

(6) 学習環境の工夫・改善

ア　子どもたちに「学び」が見える環境づくり

試行錯誤を繰り返す学習活動を大切にするため、常に学びの過程を子どもたちに見えるように心がけたい。右の写真のように廊下や教室の掲示板、オープンスペース等を活用し、子どもたちの「学びの過程」を掲示したり「学びのコーナー」を設置したりして工夫を図っている。子どもたちは活動中や休み時間にこの掲示の前に立ち止まり、自分たちの学びを確認したり振り返ったり、見通しをもったりすることができる。これがヒントとなって、次の活動や課題を見い出すことが長期にわたる学習活動の支援の一つになるのである。

学びが見える掲示板

イ　コンピュータを設置した図書室

図書室は、「総合的な学習の時間」にとって非常に重要な学びの場となるだけに改善を図っていきたい。

右の写真は、図書室に設置したコンピュータである。子どもたちがこの図書室を有効に活用することによって、追究活動が非常に広がりのあるものとなった。

コンピュータを設置した図書室

調べたい内容についてパソコンで検索し、資料や図書、事典、辞書等を用いて調べ学習を行うことができる。また、インターネットで店の情報を得、他の地域と比較するなど詳細な情報収集を行う。さらに、メールを発信したり、プレゼンテーションソフトを使って表現活動を行ったりと図書とコンピュータを相互に活用し、調べたり表現したりする活動に広がりをもたせることができる。

4　「総合的な学習の時間」を位置付けたカリキュラム評価の工夫・改善

(1) ポートフォリオ評価の具体化

ア　ポートフォリオ評価の視点

一人一人のよさや可能性の発見と伸長をより細かにとらえ、継続的に子どもたちの学びの姿を把握するため、ポートフォリオ評価を重視した。

下図は、第１学年・第２学年の生活科と第３学年からの「総合的な学習の時間」の一単元のポートフォリオ評価に視点を当てた評価計画である。

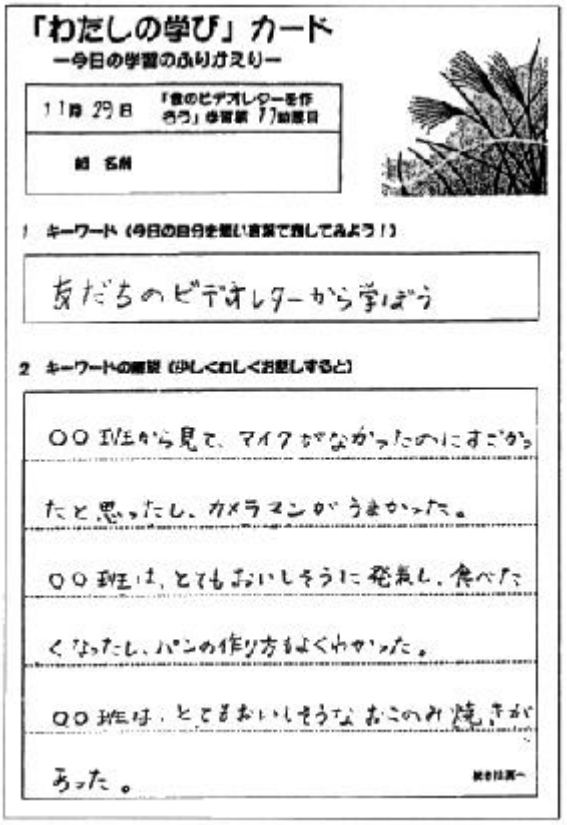
学年	単　元　名		評　価　計　画
1	生活科	「わくわくたんけん秋とあそぼう」 －○○山・クッキングにチャレンジ－	・チャレンジカードを整理し、一人一人の気付きを把握する。
2		「とびだせ２年たんけんたい」 －冬やさいパーティーをひらこう－	・観察日記や生活科ノート等を整理し、一人一人の気付きを把握する。
3	総合的な学習の時間	「和がし大作戦」	・学習の振り返りを個人別にポートフォリオとして保存し整理する中で、一人一人の学びとして座席表に記入して明確にする。
4		「水の研究所」 -水のひみつを探ろう-	・学習の振り返りを個人別にポートフォリオとして保存し、学びとして一覧表に整理して次の活動に生かしていく。
5		「食のビデオレターを作ろう」	・児童が書いたり作ったりしたものを個人別にポートフォリオとして保存し、節目節目で整理し一人一人の学びの歩みを記録する。
6		「歴史の旅－幼稚園の先生になろう」	・学習の過程と振り返りを個人別にポートフォリオとして保存し、節目節目で整理し一人一人の学びの歩みを記録し次の活動に生かしていく。

イ　ポートフォリオ評価の方法

第５学年では、具体的なポートフォリオ評価の方法として「学びのカード」を活用した。

右の図はその一例である。その日の学習活動の振り返りを「キーワード」「キーワードの解説」として記入するようにする。これによって自分自身の活動を簡潔に表し、自分の学習活動を分かりやすく、しかもとらえやすくした。つまり活動を焦点化したのである。

また、このカードを蓄積していつでも誰でも取り出せるようにし、学びの過程が見えるようにする。教師はこの蓄積された資料から、日頃なかなかとらえにくい子どもたちの考えや活動時の様子、頑張ったこと、困ったことなどを把握するとともに、長期にわたる「総合的な学習時間」での子どもたちの学びの過程を見ることができる。


「わたしの学び」カード
―今日の学習のふりかえり―

11月 29日　「食のビデオレターを作ろう」単元第 7 時間目

組　名前

1　キーワード（今日の自分を短い言葉で表してみよう！）

友だちのビデオレターから学ぼう

2　キーワードの解説（少しくわしくお話しすると）

○○班から見て、マイクがなかったのにすごかったと思ったし、カメラマンがうまかった。

○○班は、とてもおいしそうに発表し、食べたくなったし、パンの作り方もよくわかった。

○○班は、とてもおいしそうなおこのみ焼きがあった。

ウ　子どもの学びの姿を見る（第５学年「学びのカード」から）

蓄積された「学びのカード」をたどると次のような子どもの学びの姿を見ることができる。

問題発見

キーワード
ビデオレターをやってみたい

キーワードの解説
わたしはビデオを見て、やってみたいと思いました。色々な所に行って、インタビューとかしてみたいです。

追究２

キーワード
プロに教えてもらった

キーワードの解説
９チャンネルの人に色々な劇をしてもらったりアドバイスとかを聞きました。レポーターの人がまちがわずにすらすら読んでいることがすごいと思った。がんばって食のビデオレターを作りたい。

追究３

キーワード
ケーキ屋さん

キーワードの解説
店の人々がいつもやさしく笑顔です。もっとなかよくなりたい。そしていっぱいアイスやケーキが売ってあるし、おかしもあるからいいと思う。シュークリームもおいしいし、ケーキの種類もいっぱいあるからそこがいいと思う。

追究４

キーワード

決まったぞ

キーワードの解説

店に売ってある品物、店の人々についていろいろなことをしょうかいしたいです。お客さんにもインタビューしたい。店の人と早くなかよくなっておいしいものとかをしょうかいしたい。

追究５

キーワード

本番だ

キーワードの解説

リポーターをした。店長さんが、「この町の点になりたいからこの名前をつけた」と言わはったことがよかった。いっぱいおまけをしてくれてよかった。楽しかった。唐揚げがおいしかった。みんなにめいわくにならないようにできた。

エ　座席表の活用

また、ポートフォリオ評価に座席表を有効に活用した。周囲の友達関係も把握しながら、学習活動での子どもたちの瞬時の様子やつぶやきなどを書き留めて、ポートフォリオ評価の資料とした。次のページの図はその一例である。

(2) カリキュラム評価の観点

カリキュラムの改善を図るために、まず運営面を３分類し、その内容に応じて評価を進めることを基本としている。

- 学校組織
  - 毎日の全校指導体制の確認（職朝を中心にして）
  - 毎週の学年部指導体制の確認（学年会）
  - 随時の各プロ指導体制の確認（プロ長会）
- 学校環境
  - 日々及び毎月の環境改善及び整備
  - 日々及び毎月の安全点検
- 教育指導
  - 授業時数 ― 毎週及び毎月の集計と確認、評価
  - 指導内容
    - 各教科 ―― 毎週の確認、評価
    - 道徳 ―― 道徳の時間の指導と評価
    - 特別活動
      - 学校行事等　計画と評価
      - 児童活動　計画と評価
    - 各領域 ―― 日常生活における指導と評価
    - 総合的な学習の時間

① 朝の会（さわやかタイム）や終わりの会（かがやきタイム）は、話題提供者・話題の中心を記録して提示し、子どもたちのくらしを見つめる姿勢を評価しながら、ものの見方考え方を育て、子どもたちの学びの意識（関心・意欲・態度）を育てる。

② 「総合的な学習の時間」の活動や学びの展開を時間の経過と活動の流れにまとめる中で、年表や図式化して掲示することで評価し、子どもたちの学びを育てる。

③ 一人一人の活動の履歴や学びの足跡をカードなどにして保存し(ポートフォリオ)、小単元終了時の節目に座席表化して子どもたちの育ちを立体的に把握し、子どもたちの「学び」に寄り添い育ちを把握する。

5年1組　座席表

「食のビデオレターを作ろう」第13時　11月30日（木）5校時

1 （Y店ﾚﾎﾟｰﾀｰ） 最初はきんちょうして全然できなかった。慣れたらどんどんできた。	2 （N店ﾃﾞｨﾚｸﾀｰ） すごくきんちょうして、あまりしゃべれなかった。　ちゃんはすごいなあ。	3 〔Y店ｶﾒﾗﾏﾝ〕 店の人にたのんで魚をさばいてもらった。ビーフボックスがおいしかった。	4 〔W店ﾚﾎﾟｰﾀｰ〕 心臓がバクバクでした。店の人がやさしくて、仲良くなれた。もう大成功！	5 〔K店ｶﾒﾗﾏﾝ〕 おたじるとうどんがお金をはらわずに食べられてうれしかった。	6 （B店ﾃﾞｨﾚｸﾀｰ） きんちょうしました。パイナップルジュースがおいしかった。楽しかったです。	7 （K店ｶﾒﾗﾏﾝ） 店長がやさしかった。きんちょうしたけど、楽しかった。	8 （P店ﾚﾎﾟｰﾀｰ） 最初はドキドキしていたんだけど、すぐ慣れました。またしたいです。
9 〔T店ﾃﾞｨﾚｸﾀｰ〕 とっても楽しかった。編集したとき、秒とか見ながらやるので難しかった。	10 （T店ｶﾒﾗﾏﾝ） カメラマンの仕事はしっかりできた。おいしかった。おまけをしてもらった。	11 （S店ﾃﾞｨﾚｸﾀｰ） 自分なりにがんばれた。A君、Y君もがんばっていると思った。	12 （N店ｶﾒﾗﾏﾝ） ドキドキしたけど、けっこう楽しかったよ。うまくできてよかった。	13 （K店ﾃﾞｨﾚｸﾀｰ） ビクビクしてました。お好み焼きをただでもらってうれしかった。	14 （D店ﾚﾎﾟｰﾀｰ） おっちゃんもおばちゃんもやさしかった。終わると油手さわ、うれしかった。	15 （K店ﾚﾎﾟｰﾀｰ） 手作りのうどんがとてもおいしかった。	16 （B店ｶﾒﾗﾏﾝ） カチコチだった。最後は慣れていました。お客さんが1人いてよかった。
17 （K店ﾃﾞｨﾚｸﾀｰ） うまくできたし、店の人と仲良くなった。店長はやさしそうな人だった。	18 （D店ｶﾒﾗﾏﾝ） 最初ラーメンを作るところをとった。ラーメンとジュースがおいしかった。	19 （K店ﾚﾎﾟｰﾀｰ） やっていてすごくつかれました。簡単だと思っていたけど大変だった。	20 （T店ｶﾒﾗﾏﾝ） お店の人もお客さんも親切で、先生にもほめられうれしかった。	21 （M店ﾃﾞｨﾚｸﾀｰ） 目の前でグラタンコロッケバーガーを作ってくれた。楽しかった。	22 （W店ﾃﾞｨﾚｸﾀｰ） とてもドキドキした。うどんが食べられなかったのでどんな味かなと思った。	23 （S店ｶﾒﾗﾏﾝ） メモをわすれたけど、覚えているからやりました。いいやつができました。	24 （N店ﾚﾎﾟｰﾀｰ） なぜかレポーターになった。きんちょうして、いらないことまで言った。
25 （D店ﾃﾞｨﾚｸﾀｰ） 「ラーメン」食べていくか」と聞かれてうれしかった。また、やってみたい。	26 （T店ﾚﾎﾟｰﾀｰ） マイクなしでやったので大変でした。言葉を考えてなかったので失敗ばかり。	27 （T店ﾃﾞｨﾚｸﾀｰ） 店に入る前はきんちょうした。インタビューした人がやさしい人でよかった。	28 （K店ﾃﾞｨﾚｸﾀｰ） と中でカメラマンになりました。どんな豆でお豆ふを作っているか分かった。	29 （K店ﾚﾎﾟｰﾀｰ） お好み焼きを食べた。おいしかった。	30 〔P店ｶﾒﾗﾏﾝ〕 ちゃんとうつせたしよかった。パンを買って食べました。いい取材ができた。	31 （Y店ﾃﾞｨﾚｸﾀｰ） レポーターがきんちょうして何回かやり直した。見るのが楽しみだ。	32 （T店ﾚﾎﾟｰﾀｰ） けっこう楽しかった。迷惑にならないようにできた。店長さんがよかった。
33 （M店ﾚﾎﾟｰﾀｰ） いっぱいしゃべっていたら、きんちょうしていたのがましになってきました。	34 （B店ﾚﾎﾟｰﾀｰ） きんちょうした。でも楽しかった。ジュースがおいしかった。	35 （M店ｶﾒﾗﾏﾝ） ちゃんととれるか心配でした。カメラ役は簡単で楽しかったです。	36 （P店ﾃﾞｨﾚｸﾀｰ） 今までカメラを持ったことが少なくてとるときむずかしかったです。	37 （S店ﾚﾎﾟｰﾀｰ） メモを忘れたから、覚えていることとか思いついたことしか聞けなかった。	38 （W店ｶﾒﾗﾏﾝ） カメラがゆれ、手がいたかった。でもがんばった。店の人は話しやすかった。	39 （K店ｶﾒﾗﾏﾝ） まあまあ、うつせた。	

「総合的な学習の時間」を位置付けたカリキュラム改善を図るためには、次のような具体的な評価観点と項目を設定して評価を行う。

観　点	項　　目
指導計画	・研究体制は適切で、それぞれがうまく機能、連携しているか。 ・育てたい資質や能力は児童の実態や学校、地域の状況に応じたものか。 ・学習のテーマは児童の興味・関心や学校、地域の状況に応じたものか。 ・全体計画や年間計画は各学年に応じ、系統的なものか。 ・各教科や道徳、特別活動と関連が図られているか。 ・地域との連携が図られ、積極的に働きかけているか。
学習活動	・児童の興味・関心や実態に応じた学習活動が展開されているか。 ・問題解決に向けて、多様な学習方法がとられているか。 ・学習方法の工夫等がなされ、児童の主体的な学習活動が展開されたか。 ・体験的な学習が積極的に取り入れられているか。 ・児童の発表や交流する場が設定されているか。 ・自分自身の生活や生き方を見つめ直し、考える取組となっているか。 ・学習活動がより積極的に展開できるように学習環境の整備がなされているか。
評価・改善	・多様な評価方法を取り入れ、児童の変容をとらえようとしているか。 ・学習過程の評価を生かし、指導方法等の工夫・改善を図っているか。 ・保護者や地域の人々の意見を取組に生かしているか。 ・全教職員や各部会で取組を振り返り、成果や改善点を明らかにしているか。

5　カリキュラム改善への視点

「総合的な学習の時間」の実践に基づくカリキュラム改善への視点として次のような成果と改善点が得られた。

(1) 成果

この取組の成果として次の点を挙げることができる。

① カリキュラム開発の視点から育てたい資質や能力について系統的に整理し、「総合的な学習の時間」で何を目指すのか明確にすることができた。

② 全教職員の共通理解の下で、取組が進められ、これと同時に教職員の意識改革が積極的に行われた。

③ 体験的な学習や「話合い活動」を重視した問題解決的な学習が進められ、「つかむ」－「もとめる」－「みつめる」学習過程をさらに深化できた。また、「学びのカード」を活用した学習方法が工夫でき、子どもたちにとって興味・関心の高い取組となった。

④ 地域社会を基盤に「総合的な学習の時間」を展開し、地域の人々やもの、こと等本物とのふれあいによって、自然や人々とのつながりを大切にすること、相手の立場に立っ

て考えること、行動することなど心の教育の育成につながった。
⑤　学習活動に応じた「学びのカード」を工夫し、学習活動をより主体的に展開することができた。
⑥　「学びのカード」の活用により、ポートフォリオ評価を重視し、子どもたちの学びをよりきめ細やかにとらえることができた。

(2) 平成13年度に向けての改善点

平成13年度に向けて、次のようなカリキュラム改善の視点が明らかになった。

①　カリキュラム開発を視点においた系統的な単元開発
②　子どもたちが主体的に取り組む単元開発と学習方法や学習形態等の工夫
③　年間授業時数と週程表の位置付け
④　弾力的な時間の運用
⑤　開かれた学校づくりを目指した、地域の教育資源の開発と継続的な連携
⑥　評価項目やカリキュラム評価の検討、ポートフォリオ評価の開発等評価に関する研究と実践

パート３　まとめ＜小学校＞

「総合的な学習の時間」は、自ら課題を見付け、問題を解決する力や学び方、ものの考え方の育成、生き方を考えることをねらいとしている。その基盤は問題解決的な学習や体験的な学習であり、地域社会と関連を図りながら創造していく必要がある。このためには「総合的な学習の時間」を位置付けたカリキュラム開発が非常に重要となり、その充実を図っていかなければならない。

本研究では、「カリキュラム開発」に視点を置き、カリキュラム開発とは何なのかをまず明確にし、実践事例を示しながら「総合的な学習の時間」を中心にカリキュラム開発の具体的な進め方を示した。児童や地域の実態に即し、学校の教育目標を踏まえ「総合的な学習の時間」を位置付けたカリキュラムで育成する力を明らかにし、系統的な単元開発や指導内容の創造、指導方法の工夫、評価等について提示できたことは参考になるのではないかと考える。

「総合的な学習の時間」は、教科の枠を超えて横断的・総合的な学習を行うとされているが、その基盤となるものは各教科等の学習である。「総合的な学習の時間」は各教科等と切り離して考えるものではなく、そこで学んだ知識や技能等を生かすとともに、「総合的な学習の時間」で身に付けた問題解決能力や学び方等を各教科等で深化していくことが重要である。相互の有機的な連携を図っていかなければならないのである。こうした点からも本研究が「総合的な学習の時間」を位置付けたカリキュラムの改善・発展に寄与するものとなれば幸いである。